

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育原理		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	桑田 由美
授業の概要				
保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概念を通じて、保育に関する基礎的な知識を培う。				
授業終了時の到達目標				
保育が直面している現実的・今日的で切実な課題に当ることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つ。				
回	テーマ	内容		
1	はじめに 第1章 乳幼児の特質と保育の意義	保育とは 保育観、乳幼児期の発達的特質		
2	第2章 保育思想と児童観の変換	幼児の思考、言語の発達 古代、中世		
3	第2章 保育思想と児童観の変換	近世、近代—エミール		
4	第2章 保育思想と児童観の変換	近世—ペスタロッチ、子どもの管理 ロバート・オーエン		
5	第3章 近代保育施設・制度の創設と発展	フレーベル		
6	第3章 近代保育施設・制度の創設と発展	モンテッソーリ		
7	第4章 各国の保育	イギリス、フランス、アメリカ		
8	第4章 各国の保育	ドイツ、スウェーデン		
9	第5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変換	幼稚園		
10	第5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変換	保育所		
11	第5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変換	認定こども園		
12	第7章 保育の内容・方法・計画・評価	保育方法の基本原則、保育の計画 保育の評価		
13	第8章 さまざまな保育と課題	幼児指導要録などいろいろな書類 今後の動向と課題		
14	第8章 さまざまな保育と課題	今後の動向と課題		
15	まとめ・試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育原理(近畿大学九州短期大学)		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	【準備学習】 テキストを熟読する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
児童家庭福祉		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一

授業の概要

- ・子どもと家庭を取り巻く状況を理解し、子育て家庭を支援するさまざまな施策や施設、機関等について学習する。
- ・子ども子育て支援新制度に基づく保育サービスや子育て支援サービスについて学ぶ。

授業終了時の到達目標

- ・児童福祉六法に基づく支援施策および子ども子育て支援新制度について説明できる。
- ・児童虐待の現状と背景を踏まえて、虐待防止について考えることができる。

回	テーマ	内 容
1	少子高齢化と家族機能の変化	・少子高齢化の現状と家庭福祉 ・家族形態、家族機能、地域社会の変化
2	子ども家庭福祉の歴史	・欧米の子ども家庭福祉の歴史 ・日本の子ども家庭福祉の歴史
3	児童福祉六法	・児童福祉法 ・その他の法律
4	子ども家庭福祉の機関	・児童相談所 ・その他の機関
5	子ども家庭福祉に関わる専門職	・保育士、児童自立支援員、ファミリーソーシャルワーカー等
6	児童福祉施設	・児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、母子生活支援施設 ・障害児入所施設等
7	虐待の防止と支援	・虐待の現状と課題 ・虐待の防止と支援
8	養護を必要とする子どもへの施策	・施設養護 ・家庭養護
9	ひとり親世帯への施策	・子育て支援、経済的支援、就労支援等
10	障害のある子どもへの施策	・障害者総合支援法に基づく支援 ・早期発見・療育、経済的支援等
11	母子保健施策・健全育成	・母子保健法に基づく支援 ・児童厚生施設、放課後児童クラブ等
12	保育サービス	・待機児童問題 ・保育所における保育サービス
13	子ども・子育て支援新制度	・子ども・子育て支援新制度による保育サービス ・子育て支援サービス
14	少子化対策と子育て支援	・少子化対策 ・ワーク・ライフ・バランス
15	まとめ、期末試験	・まとめ ・筆記試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
大津泰子「児童家庭福祉」ミネルヴァ書房	期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	レポートは2枚作成

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
相談援助		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	近大講師
授業の概要				
相談援助の基本的枠組み 相談援助の基本的概念 相談援助の具体的展開				
授業終了時の到達目標				
相談援助の基本的枠組みを理解する。 相談援助の基本的概念を理解する 相談援助の具体的展開を演習を通じて理解する				
回	テーマ	内容		
1~ 2	オリエンテーション 傾聴の姿勢	対人援助職としてのソーシャルワーカー 傾聴の技法について学ぶ		
3~ 4	ロールプレイとは 実習における困りごとについて	ロールプレイとは何かについて学ぶ グループワークを基にロールプレイを行う		
5~ 6	訴えの多い保護者への対応	場面設定をし、グループワークで話し合いのもと、ロール プレイを行う		
7~ 8	問題意識の低い保護者への対応	場面設定をし、グループワークで話し合いのもと、ロール プレイを行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
コメディカルのための社会福祉概論(講談社)		課題・レポート・試験 授業態度	60.0% 40.0%	意欲的に授業に参加すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達心理学		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	豊田 尚子(実務経験有)

授業の概要

発達心理学は、人が生涯を通じて、身体と運動機能、知的機能、社会性、人間性などさまざまな面において、どのような発達を遂げていくかを科学的に研究する学問であり、私たちにとって、大変身近な学問でもある。言語、知的、感情面において、また社会性や道徳性といった面において、人はどのように発達していくかを代表的な理論を紹介しながら、学んでいく。
【実務経験】医療機関で10年間、スクールカウンセラーとして13年間の実務経験(臨床心理士)
これまでの現場での経験を踏まえ、人の生涯に渡る変化を心理学的にどのように捉え、理解していくのかを伝えていく

授業終了時の到達目標

- ①発達心理学がどのような学問であるか。また、これまでの発達理論の変遷について理解する
- ②言語、知的、感情、社会性、道徳性の発達について、代表的な理論も含めて理解する
- ③生涯発達の観点から、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の生活や発達について理解する

回	テーマ	内容		
1	イントロダクション 発達心理学とは	導入(授業計画など) 発達の意味と発達心理学について		
2	発達に関する理論	初期の発達理論と現代の発達理論		
3	身体と運動機能の発達	身体の発育 運動能力の発達		
4	言語の発達	言語獲得に関する仮説と言語発達の道筋		
5	知的発達	ピアジェの知的発達論		
6	知的発達 環境と発達	発達の階層的構造化 記号と表象 遺伝と環境 初期経験と発達の関係		
7	環境と発達	初期経験の重要性 知的発達と環境の関係		
8	パーソナリティの発達	パーソナリティの形成		
9	感情と動機づけの発達	動機づけ 感情の種類 情動の種類と発達		
10	社会性と道徳性の発達	社会化への道と社会的交流 遊び 道徳性についての考え方とその発達		
11	青年期の発達	青年期の発達課題 身体的発達と心理的特徴 青年期の人間関係		
12	成人期の発達	成人期の発達課題 仕事と生活 中高年層の悩み		
13	老年期の発達	老年期の発達課題 老いの特徴 高齢者の病		
14	発達の障害	身体や運動機能に関わる障害 知的機能に関わる障害 社会性に関わる障害		
15	補足と質疑応答 科目終了試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
発達心理学 — 乳児期から老年期まで— 近畿大学九州短期大学 補足用レジュメ		期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	・意欲をもって学習する 【準備学習】次回の学習内容の把握

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの保健Ⅰ		こども福祉教育学科／2年	2019／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	岡田淑恵（実務経験有）

授業の概要

本科目は、子どもをさまざまな面から支える保育士養成課程が「小児保健」から「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」に改正され「精神保健」領域の一部が組み込まれた。また、児童福祉法改正や発達障がい者支援法等々法令関係の動向を合わせて学び、保育の現場で専門職としての役割が果たせることをねらいとする。

【実務経験】保健師として35年 これまでの母子保健事業を教材として保育に関わる基礎的な知識について指導する

授業終了時の到達目標

子どもの身体発育・生理機能・運動機能・精神機能・疾病とその治療・小児保健行政等についての基礎的知識を修得する

回	テーマ	内 容
1	はじめに 子どもの精神保健	はじめに 精神保健とは 子どもの心身の健康 心身症
2	子どもの精神保健	生活習慣や行動上の問題 発達障がいのある子どもとその対応 慢性疾患の子どもをかかえる問題
3	子どもの精神保健	育児環境と精神保健 母親のメンタルヘルス 虐待
4	子どもの精神保健	子どものトラウマとその対応 地域精神保健活動
5	子どもの生活と健康	乳児の生活 1. 2歳児の生活 3・4・5歳児の生活
6	子どもの生活と健康	身体の清潔と衣服 子どもの歯 排泄の世話
7	子どもの生活と健康	集団生活は家庭の延長 集団の場が育むもの 保健における養護と教育の一体性
8	子どもの疾病と保育（1）	子どもの疾病の特徴 呼吸器疾患 重要な感染症
9	子どもの疾病と保育（1）	消化器疾患 循環器疾患 泌尿・生殖器疾患
10	子どもの疾病と保育（1）	中枢神経系疾患 代謝・内分泌疾患 血液・腫瘍性疾患 アレルギー疾患
11	子どもの疾病と保育（1） 子どもの疾病と保育（2）	整形外科疾患 その他の疾患 乳幼児突然症候群 保育所での感染症の取り扱い
12	子どもの疾病と保育（2）	予防接種 身体障がいのある子どもとその対応 乳幼児健康診査 疾病異常と支援体制
13	環境整備・事故防止と安全管理	保育環境整備と保健 保育現場における衛生管理 子どもの事故の特徴と現状 事故による心身の被害と救急処置
14	環境整備・事故防止と安全管理	子どもの事故防止対策と安全教育 災害への備え 救急処置
15	保健活動の計画及び評価 まとめ 科目修了試験	保健計画の作成と活用 保健活動の記録と自己評価 職員間の連携と組織的取り組み まとめ 科目修了試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> よくわかる子どもの保健：ミネルヴァ書房 国民衛生の動向：厚生統計協会 母子保健マニュアル：母子保健事業団 小児保健学：日総研 	期末試験	100.0%	主体的に意欲をもって授業に参加する 「準備学習」 次回の授業内容を踏まえて授業に臨む

回	テ ー マ	内 容	
			えんがキリストを用いて 予習する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの食と栄養		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田中 陽子(実務経験あり)

授業の概要

人の健康と食生活習慣は、生涯の身体的・精神的活動の基盤となる。よって乳幼児期をどのように過ごすかが、生涯を通して、健やかに過ごすことができるかどうかを左右するといっても過言ではない。またその大切な時期を支援する保育士の作り出す食環境は、家庭とならんで、子どもに大きな影響を与えるため、その責任は大きい。栄養の基本的な知識と各年齢ごとの身体的・精神的特徴、食事管理の重要性、身体的評価、現代の子ども達を取り巻く食生活環境の実態や社会的問題を広く理解し、保育と食育を行う実践力を養うことを目的とします。

【実務経験】管理栄養士として18年の実務経験
栄養学関連科目の非常勤講師として5年の実務経験

授業終了時の到達目標

1. 子どもの発育・発達と食生活との関連や意義について理解を深める。
2. 特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応について学ぶ。
3. 子どもやその家庭に対して「食生活や栄養」に関する情報提供ができるスキルを身につける。

回	テーマ	内容
1	・子どもの健康と食生活の意義 ・栄養に関する基礎知識(栄養とは)	・現代の子どもたちの食生活の現状や問題点を知り、子どもの食と栄養について学ぶ目的や必要性を学ぶ ・栄養とは何か。基本概念と栄養素の種類や機能について知識を深める
2	・栄養に関する基礎知識(炭水化物) ・栄養に関する基礎知識(脂質)	・三大栄養の一つである“炭水化物”と“脂質”の種類や特徴、消化吸収と代謝について学ぶ
3	・栄養に関する基礎知識(たんぱく質) ・栄養に関する基礎知識(ビタミン・ミネラル)	・三大栄養の一つである“たんぱく質”の種類や特徴、消化吸収と代謝および、“ビタミンとミネラル”の種類や生理作用について学ぶ
4	・日本人の食事摂取基準 ・乳児期の心身の発達と食生活	・日本人の食事摂取基準2015年版について、その意義と活用について学ぶ ・胎児から乳児期にかけての、心身の発育と食べる機能、栄養や食生活の意義や内容について学ぶ
5	・離乳の意義とその実践 ・幼児期の心身の発達と食生活	・乳汁栄養と離乳食について、その特徴と意義、方法について学び、実践に必要な知識を学ぶ ・幼児期の心身の発育と食べる機能、栄養や食生活の意義や内容について学ぶ
6	・特別な配慮を要する子どもの食生活 ・障害のある子どもの食生活	・特別な配慮を要する子どもの症状や特徴、食生活上の注意点や緊急時の対応など実践に必要な知識を学ぶ ・障害を持つ子どもの食生活上の特徴を知り、実践に必要な知識を学ぶ
7	・食育の基本と内容 ・食の安全と食中毒	・“食育”の目的や基本理念、および効果的な方法について学ぶ ・食中毒・食生活上の清潔や衛生管理、食品添加物の基礎知識 ・研究発表のアナウンス
8	調理実習について解説(スクーリング①)	・食中毒の予防と衛生管理・離乳食について復習 ・調理法解説
9	調理実習(スクーリング①)	・幼児食と離乳食の調理実習及び試食
10	調理実習(スクーリング①)	・幼児食と離乳食の調理実習及び試食
11	まとめ(スクーリング①)	全講義内容の復習とポイントまとめ
12	定期試験(スクーリング②)	定期試験
13	研究発表の準備・リハーサル(スクーリング②)	テーマは『食育について』グループごとに発表する。計画に沿って準備とリハーサルを重ねる時間とする
14	研究発表の準備・リハーサル(スクーリング②)	テーマは『食育について』グループごとに発表する。計画に沿って準備とリハーサルを重ねる時間とする
15	研究発表(スクーリング②)	研究発表と相互評価

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新保育ライブラリ 子どもを知る 子どもの食と栄養/北大路書房	研究発表 授業態度 期末試験	30.0% 10.0% 60.0%	毎回配布の講義プリントを活用して学習すると良い。

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
家庭支援論		こども福祉教育学科／2年	2019／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡邊 英実(実務経験有)

授業の概要

保育所や保育士が支援する対象である家族及び家庭についての定義について学び、なぜ社会的支援が求められるのかについて考える。

実務経験：福祉従事者としての実務経験17年

精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談（スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー）に従事している。課題を抱える子どもやその保護者および教員へのかかわりや他機関との連携・協働の仕方等実際の支援の場面を教材とし、家庭支援について指導する。

授業終了時の到達目標

地域における子どもとその家族を支援するという役割を担う視点を理解する

回	テーマ	内容
1	家庭支援の意義と役割	「家族」と「家庭」と「世帯」それぞれの意義と機能について
2	ライフサイクルと人間の発達段階	家族のライフサイクルと個人の発達段階との関係について
3	家庭生活を取り巻く社会的状況	家庭生活と社会環境との関係について
4	現代の家庭	現代の子どもと家庭を取り巻く状況について
5	子育てをめぐる諸相	家庭と子育てに関するデータを基に子育て家庭が抱える悩みや負担を読み解く
6	子育て支援サービスの現状	子育て家庭を支援する法制度や機関、人的サービスについて学び、子育て支援の現状について知る
7	子育て家庭支援のあり方	問題対応型支援から早期発見・予防型支援への転換について
8	保育者の基本的姿勢	保育者の役割と基本的態度について
9	保育ニーズへの対応	保育とは何かについて再度考え、保育ニーズへの対応方法について学ぶ
10	地域における子育て支援	地域における子育て家庭支援の必要性について
11	特別なニーズへの支援	特別なニーズを持つ子育て家庭への支援方法について
12	虐待家庭への支援	要保護児童とその家族への家庭支援について
13	子育て支援の展望	様々な場所における家庭支援の可能性について
14	レポート	家族形態、機能、取り巻く地域社会はどのように変化しているか
15	レポート	虐待家族への支援について

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房2016第2版	期末試験	100.0%	グループワークを実施 知ることもあるので、 次コマまでに教科書に てテーマとなっている 箇所を詳しくお話し

回	テ ー マ	内 容	
			個人を認めておくこ い。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害児保育		こども福祉教育学科／2年	2019／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中野 年朗（実務経験有）

授業の概要

個人ワーク、グループワーク、ロールプレイ等など、様々なワークや講義を通して障害がある子どもの保育を実践するにあたり、基本的な知識から実践的な技術や方法までを効果的に学べるよう体験型の学習を進めていきます。また、感想文の記入や振り返りシートでその日に学んだことを自分なりにまとめていくことで、子ども理解を深めていきます。

中野 年朗：児童発達支援センターでの児童指導員、園長としての実務経験を生かして児童発達支援現場での「今の児童発達支援」を学んで頂きます。

授業終了時の到達目標

この授業では障害がある子どもに対する理解を深めることを目的とします。また、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 「障害」ってどんな感じ？	自己紹介 笠岡学園について 授業の進め方、評価の方法 障害の意味、とらえ方、ICF、ICFを活用した支援
2	障害児保育とは何か①	乳幼児期における障害のわかりにくさ、障害児保育で大切にしたいこと 基本的な生活習慣、コミュニケーション発達
3	障害児保育とは何か②	幼児期の障害のある子どもの抱える困り感、やる気を高める、発達障害がある子どもの支援の基本、
4	障害児保育の仕組み③	障害児保育のあゆみ、ノーマライゼーションとインクルージョン、障害児保育の制度、幼稚園と保育所における障害児の保育
5	障害児保育の仕組み④ 知的障害児の特徴と保育での支援①	乳幼児健康診査と早期発見、就学時健康診断、就学に向けて、就学基準 知的障害児のとらえ方、知的障害児のある子どもの支援を考えてみよう
6	知的障害児の特徴と保育での支援② 自閉症スペクトラム障害の特徴支援①	ダウン症児の特徴と支援、個別配慮や小集団を利用した発達支援 自閉症スペクトラム障害のとらえ方、自閉症児の支援のポイント
7	自閉症スペクトラム障害の特徴支援② まとめと試験	個別配慮や小集団を利用した保育 これまでの内容を統括し、試験を行う
8	注意欠如多動性障害のとらえ方	注意欠如多動性障害とは、特徴、支援のポイント 保育現場における支援
9	学習障害児のとらえ方 視覚障害児の特徴、聴覚障害児の特徴	学習障害児の認知の特徴、保育現場における支援 視覚障害児の保育、聴覚障害児の保育
10	肢体不自由児の特徴	肢体不自由児の保育 肯定的に伝えてみよう！発達保障のインクルーシブ保育
11	効果的な指示の出し方 環境を整える	子どもが従いやすい指示の出し方 問題行動のとらえ方
12	問題行動のとらえ方 問題行動への対応を考える	問題行動の意味を考えてみよう、問題行動への対応を考える クラスメートへの対応
13	インクルーシブ保育の支援体制づくり 保育所・幼稚園と小学校との連携	支援に生かす実態把握、個別の指導計画とは 保育所・幼稚園と小学校の接続期の子どもにとっての「段差」
14	障害の子に向き合うということ 児童虐待と発達障害	障害の子どもを育てている保護者の気持ち 好ましくない行動を減らす（ほめるために待つ）
15	視覚教材の紹介 まとめと試験	授業アンケート記入、感想文記入 これまでの内容を統括し、試験を行う

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
尾崎康子他：よくわかる障害児保育、ミネルヴァ書房 毎回レジメを配布し、そのレジメに沿って授業を進めます。	期末試験	70.0%	【準備学習】 次回の授業内容の教科書を読んでくること。 事前にページは伝えま す。
	授業態度 （関心、意欲、態度、発表等）	20.0%	
	提出物	10.0%	

回	テ ー マ	内 容	
	レポート、授業振り返りシート、感想		9。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護内容		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	原 隆之(実務経験有)
授業の概要				
<p>近年、児童相談所における虐待通告件数は増加の一途をたどっています。これは、家庭における養育機能の弱体化が理由の一つとされています。そのため、社会的養護としての福祉施設の質が問われているのが現状です。この講義では、児童養護施設における養育の基本理念と実践方法について学び援助者としての支援の視点を考察・検討していきます。</p> <p>【実務経験】児童養護施設 こぶしヶ丘学園 家庭支援専門相談員(FSW)として現職</p>				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童問題の現状や背景を理解する。 2. 児童福祉施設として、基本視点、体系について学ぶ。 3. 施設職員の在り方についての役割、援助方法を学ぶ。 				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	社会的養護とは?養育とは?様々な背景がある分だけ、その対応も同じようにある。その		
2	児童養護施設の概要	社会的養護の中での児童福祉施設の説明及びそれぞれの施設の特色について学ぶ。		
3	施設養護の現状(1)	施設養護の基本原理と特質、また体系と機能を学ぶ。		
4	施設養護の現状(2)	施設職員として、施設をどう見てどう感じているのか。実際の社会的養護の担い手としての意見を聞く。		
5	児童養護施設における援助	施設入所児の背景を理解することにより、その児童にとっての最適な養育とは何かを考える。(発達面での課題等)		
6	児童養護施設における援助	周りに関与する支援(保護者・地域・学校)についての連携について学ぶ。		
7	児童養護施設における課題と対応	実際に施設内での様々な課題や問題について、提示。グループごとの討議を行う。		
8	総括	全体的な総括。質疑応答も含めた生徒の今後の養育観の向上に繋がるよう総括を行っていく。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席・授業態度・取組姿勢	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育相談支援		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	渡邊 英実(実務経験有)
授業の概要				
<p>保育相談支援の意義と原則について理解する。 保護者支援の基本を理解する。 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p> <p>実務経験：福祉従事者としての実務経験17年 精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談(スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー)に従事している。課題を抱える子どもやその保護者および教員への実際の支援の場面を教材とし、支援理論をどのように活用していくのかを指導する。</p>				
授業終了時の到達目標				
保育の場における保育相談支援についての知識・技術の習得				
回	テーマ	内容		
1	保育相談支援の意義	保護者に対する保育相談支援の意義について		
2	保育士の専門性	保育の特性と保育士の専門性について		
3	保育相談支援の基本的姿勢①	子どもの最善の利益と福祉的支援の重要性について 子どもの成長の喜びの共有について 保護者の養育力の向上に資する支援について		
4	保育相談支援の基本的姿勢②	信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重 地域資源の活用と関係機関等との連携・協力		
5	保育相談支援の方法	保育に関する保護者に対する指導について 保護者支援の内容、方法と技術論について		
6	保育相談支援の流れ	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンスについて		
7	保育相談支援のロールプレイ①	保育所における保育相談支援の実際、特別な対応を要する家庭への支援(ロールプレイ)		
8	保育相談支援ののロールプレイ②	障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援(ロールプレイ)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	各教科の復習をしておくことよい

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽(器楽・声楽)		こども福祉教育学科/2年	2019/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中島 弘恵(実務経験有) 日野 みどり(実務経験有)
授業の概要				
幼稚園や保育所での子ども達の生活は、音楽を中心として活動が展開されています。音楽Ⅰ(1年次)の授業に引き続き幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術(ピアノ)の習得や資質の向上を目指し学習します。				
【実務経験】中島弘恵：音楽教室でピアノ講師としての実務経験				
授業終了時の到達目標				
音が苦しい「音が苦」では子どもが喜びません。ピアノを弾きながら楽しく歌えるよう技術の向上を目指します。 保育士資格・幼稚園教諭免許の取得 近大試験(レベル③)合格 採用試験受験レベル(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバムレベル)の技術の習得				
回	テーマ	内 容		
1~2	近大指定レベル③の説明 弾き歌い 生活・行事・手遊びの曲	生活・行事・手遊びの曲 近大テキストレベル③36番~44番		
3~4	弾き歌い	動物 レベル③45番~54番 乗り物・身体表現 レベル③55番~62番		
5~6	弾き歌い	童謡・唱歌・卒園 近大テキストレベル③63番~70番		
7	近大ピアノ試験対策	近大指定課題曲の練習 近大レベル③ピアノ試験対策 リハーサル		
S1日 目 8~11	実技試験	近大課題曲練習 近大ピアノ試験対策		
S2日 目 12~15	実技試験	近大ピアノ実技試験		
16~17	弾き歌い・自由曲(採用試験曲用)	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習 ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム) より学生個々に合わせた選曲		
18~20	弾き歌い・自由曲	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習 ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム) の譜読み・練習		
21~23	弾き歌い・自由曲	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習 ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム) 音楽記号等理解しての練習		
24~26	ピアノ発表会(実技試験)に向けての対策	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習 ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム) 暗譜		
27~28	ピアノ発表会(実技試験)に向けての対策	ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム より1曲) 発表に受けてリハーサル		
29~30	ピアノ発表会(実技試験)	公開ピアノミニコンサート(採用試験想定してのピアノ実技試験)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短期大学指定 「音楽Ⅰ(ピアノ教本)」 ブルグミュラー ソナチネアルバム ソナタアルバム こどものうた200		実技試験	100.0%	授業までに出された課題曲を練習してこること。近大指定教則本は前期で終了させましょう。後期は実習曲や採用試験曲に真剣に取り組むこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
図画工作		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	桑田 由美(実務経験有)

授業の概要

幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる造形に関する表現技術を実習を通じて習得する。

【実務経験】幼稚園教諭として実務経験あり

授業終了時の到達目標

幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育をおこなえる能力を習得する。

回	テーマ	内容
1～2	はじめに 製作活動	授業内容の説明 製作作品の決定、製作に取り掛かる
3～4	製作活動	廃材3種類以上使用して作品を作る(1個目)
5～6	製作活動	廃材3種類以上使用して作品を作る(2個目)
7～8	製作活動 写真撮影	完成作品を撮影する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	課題・レポート 授業態度	80.0% 20.0%	【準備学習】 製作物を考え、材料の準備をする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児体育		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	小林 修
授業の概要				
<p>幼児の発育発達の基本となる遊びと身体活動について、その指導上の重要事項を学習します。また、自身の身体活動を通じた気づきや経験をこどもの成長へとつなぐため、指導者としての知識・技術を習得していきます。</p> <p>遊びの天才である子どもたちと共に、遊びや身体活動を通じて楽しむこと・学ぶことについて考え、より有益な指導を行えるよう知識・技術・能力を高めるための時間とします。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児にとっての遊び・身体活動が、より有効な発育発達のための活動/学習活動へとつなげられる 2. 指導者としての工夫・実践のため、更なる学習を継続することができる 3. 幼児の遊び・身体活動上での健康・安全に関する知識があり、その実践ができる 				
回	テーマ	内容		
1	屋外遊具を活用した遊び・身体活動とその指導1	ウォーミングアップ ごっこ遊びなどを活用した遊び・体育指導		
2	屋外遊具を活用した遊び・身体活動とその指導2	雲梯、ジャングルジム、鉄棒などを活用した遊び・体育指導		
3	屋外遊具を活用した遊び・身体活動とその指導3	ストレッチング・ウォーミングアップ 雲梯、ジャングルジム、鉄棒などを活用したテスト		
4	屋外遊具を活用した遊び・身体活動とその指導4	鬼ごっこを活用した遊び クーリングダウン		
5	室内遊具、運動器具を活用した身体活動とその指導1	ウォーミングアップ ごっこ遊びなどを活用した遊び・体育指導		
6	室内遊具、運動器具を活用した身体活動とその指導2	ボール・マット・跳び箱などを活用した遊び・体育指導		
7	室内遊具、運動器具を活用した身体活動とその指導3	ストレッチング・ウォーミングアップ ボール・マット・跳び箱などを活用したテスト		
8	室内遊具、運動器具を活用した身体活動とその指導4	ボール・マット・跳び箱などを活用した遊び・体育指導・テスト クーリングダウン		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児体育 近畿大学九州短期大学編		出席 授業態度 取組・小課題 実技テスト・課題	20.0% 20.0% 20.0% 40.0%	授業までの体調管理に努めておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言語表現		こども福祉教育学科/2年	2019/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	桑田 由美(実務経験有)
授業の概要				
<p>幼児期の言語表現活動の重要性を認識し、言語表現活動に関する知識や技術を習得する。</p> <p>【実務経験】幼稚園教諭として実務経験あり</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>幼児期の言語表現活動の重要性を認識し、実践的な指導ができるようになること。</p>				
回	テーマ	内容		
1~2	パネルシアターについて	制作方法の説明、題名・台本の決定		
3~4	パネルシアターの制作	パネルシアターの制作		
5~6	パネルシアターの制作	パネルシアターの制作		
7~8	パネルシアターの発表	パネルシアターの制作	発表練習	発表
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
パネルシアターの本		実習・実技評価 授業態度	80.0% 20.0%	【準備学習】 製作物を考え、教材テキストの準備をする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育相談		こども福祉教育学科／2年	2019／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡邊 英実（実務経験有）

授業の概要

教育場面における相談援助の意義について学び、具体的な手法について知る。

実務経験：福祉従事者としての実務経験17年

精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談（スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー）に従事している。課題を抱えるこどもやその保護者および教員との実際の面接場面を教材とし、教育相談の本質を指導する。

授業終了時の到達目標

教育相談を行うにあたって基本となる心理学や支援に必要な「カウンセリングマインド」「アセスメント方法」について学ぶ

回	テーマ	内容		
1	教育相談とは	保護者の心を支える子育て支援の必要性と心の支援に必要なことを学ぶ		
2	心理療法	各心理療法についての概要について学ぶ		
3	カウンセリング技法	保育者の専門性としてのカウンセリングスキルについて学ぶ		
4	箱庭体験	グループ箱庭体験		
5	保護者とのかかわり方	保護者との接点と保護者との話し方について学ぶ		
6	養育困難を抱える保護者支援	虐待の定義と養育困難に陥りやすい保護者への支援について学ぶ		
7	発達に課題のあるこども支援	発達障害について学び、子ども支援について考える		
8	障害のある子どもを持つ保護者支援	障害のある子どもを持つ保護者への支援のポイントをつかむ		
9	精神疾患と保護者支援	精神疾患の概要と精神疾患を持つ保護者への支援方法について学ぶ		
10	子育て支援とSGE	保護者会における構成的エンカウンターグループの活用について学ぶ		
11	事例検討	登園しぶり事例		
12	事例検討	いじめ事例		
13	事例検討	発達に課題のあるこども支援についてロールプレイ		
14	事例検討	虐待事例		
15	テスト	記述式		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
石川洋子編集『子育て支援カウンセリング』図書文化社2016第7刷		期末試験	100.0%	各コマレポートあり

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位(8時間)	必須	桑田 由美(実務経験有)
授業の概要				
この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して保育所実習・児童福祉施設実習についての授業を行う。保育所実習・児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な実例に基づきながら行っていく。また、保育所・児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・ 指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着ける。 ・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 				
回	テーマ	内容		
1	保育実習	保育実習の全体の流れと諸注意		
2	保育所実習の意義・目的・内容について	意義・目的・内容について各自の実習のねらい		
3	実習書類作成	実習書類作成 礼状		
4	実習準備	プレゼント作成 実習準備		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新訂しりたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド (同文書院)		授業態度	100.0%	【準備学習】 授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)		こども福祉教育学科/2年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位(8時間)	必須	桑田 由美(実務経験有)
授業の概要				
この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習についての授業を行う。児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な実例に基づきながら行っていく。また、児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・ 実習先施設について 事前学習をする。 ・ 実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着ける。 ・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 				
回	テーマ	内 容		
1	施設実習	施設実習の全体の流れと諸注意 実習先施設についての事前学習		
2	施設実習の意義・目的・内容について	意義・目的・内容について 各自の実習のねらい		
3	実習書類作成	実習書類作成 礼状		
4	実習準備	プレゼント作成 実習準備		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新訂しりたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド (同文書院)		授業態度	100.0%	【準備学習】 授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習①		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
8時間	10日間	2単位(80時間)	必須	桑田 由美(実務経験有)

授業の概要

これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。
 ・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
 ・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの教育について総合的に学ぶ。
 ・教育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・教師の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
 【実務経験】幼稚園教諭として実務経験あり

授業終了時の到達目標

教師の仕事、子どもとのかかわり方、教育技術を習得する。実習日誌を作成する。

回	テーマ	内容		
1	観察実習	1. 幼稚園の役割と機能 ・幼稚園の生活と一日の流れ ・幼稚園教育要領の理解と教育課程の展開		
2	参加実習	2. 子ども理解 ・子どもの観察とその記録による理解 ・子どもの発達過程の理解 ・子どもへの援助やかかわり		
3	参加実習	3. 教育内容・教育環境 ・教育課程の計画に基づく教育内容 ・子どもの発達過程に応じた教育内容 ・子どもの生活や遊びと教育環境 ・子どもの健康と安全		
4	参加実習	4. 教育の計画、観察、記録 ・教育課程と指導計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価		
5	参加実習および部分実習	5. 専門職としての教諭の役割と業務倫理 ・教諭の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・教諭の役割と職業倫理		
6	参加実習	実践的幼児教育		
7	参加実習	実践的幼児教育		
8	参加実習	実践的幼児教育		
9	参加実習	実践的幼児教育		
10	参加実習および部分実習	実践的幼児教育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「はやわかりBOOK 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(学陽書房) 「0~5歳児 年齢別 実習完全サポート実習の記録と指導案」(ひかりのくに) こどものうた200(チャイルド本社)など		実習・実技評価 実習日誌、態度など	80.0% 20.0%	主体的に積極的な姿勢で実習に取り組む。 【準備学習】 幼稚園教育要領を読む。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅰ(保育所)		こども福祉教育学科/2年	2019/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
8時間	10日間	2単位(80時間)	必須	桑田 由美(実務経験有)
授業の概要				
「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。「保育所」で実習を行う。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④保育所の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるが理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 				
回	テーマ	内容		
1	1. 保育所の内容、機能について理解する。	保育所の1日の流れやプログラムの理解など		
2	2. 保育所における子どもの理解。	年齢(月例)ごとの子どもの発達とその特徴など		
3	3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。	共働を通して理解する。		
4	4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。	発達に適した保育の指導計画を立案する。 一日を振り返り考察し学びを深める。		
5	5. 設定保育を経験する。	担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。		
6	参加実習	実践的保育		
7	参加実習	実践的保育		
8	参加実習	実践的保育		
9	参加実習	実践的保育		
10	参加実習	実践的保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「はやわかりBOOK 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(学陽書房) 「0~5歳児 年齢別 実習完全サポート実習の記録と指導案」(ひかりのくに) こどものうた200(チャイルド本社)など		実習・実技評価 実習日誌、態度など	80.0% 20.0%	主体的に積極的な姿勢で実習に取り組む。 【準備学習】 保育所保育指針を読む。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽		こども福祉教育学科/2年	2019/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	中島 弘恵(実務経験有)
授業の概要				
<p>幼児と歌は、切っても切れない関係にあります。幼児に無理のない素直な声で歌わせるには、保育者自信、示しうだけの技量を身に付けなければなりません。</p> <p>この教科では読譜力をつけ、音程、リズム、歌唱による音楽表現の強化をおこないます。</p> <p>【実務経験】教育現場での音楽指導経験有</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>年次：近大試験 レベル②③合格 基礎リズム・音程の習得</p>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	講義の概要を説明し授業の目標を明確にする。		
2~3	音読み・リズム取り 歌唱(近大指定レベル②教則本より)	レベル②コーリユーブンゲン・コンコーネ(近大指定教則本番号による) 発声練習		
4~5	音読み・リズム取り 歌唱(近大指定レベル②教則本より)	レベル③コーリユーブンゲン・コンコーネ(近大指定教則本番号による) 発声練習		
6~7	近大指定レベル②③試験対策	レベル②・レベル③(近大指定 音楽試験課題曲) 試験対策		
8	音楽試験	近大音楽実技試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短期大学指定 「音楽Ⅰ(音楽教本)」 こどものうた200 プリント		音楽実技試験	100.0%	授業で習った曲を復習 しましょう。 授業中は間違えてもい いので真剣に歌いその 曲を覚えましょう。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
PC実習(表計算)		こども福祉教育学科/2年	2019/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	甲斐 滋美

授業の概要

表作成やグラフ作成、関数の使い方等基礎から応用までの操作技術を学ぶ
特に、実務で使う「計算式」や「関数」を体系的に学ぶことで、より実務に近い操作を習得する

授業終了時の到達目標

MOS Excel Specialist(一般)2016の合格

実務技能を身に付ける

回	テーマ	内容
1	動機づけ データ入力の基礎	資格取得のメリットの説明 評価方法の説明 データ入力の手順・ワークシートの保存と読み込み・印刷
2	ワークシート編集	行列の操作・表示位置の変更・書式の変更 保存
3	出題範囲1-1 ワークシートブックの作成と管理	新しいブックを作成する テンプレートを使用して新しいブックを作成する ファイルのインポート Excel内で外部データを直接開く 既存のブックにワークシートを追加する ワークシートをコピー・移動する
4	出題範囲1-2 ワークシートブックの作成と管理	・前回範囲の復習 ブック内のデータを検索する ハイパーリンクを挿入する ワークシートの順番を変更する ジャンプ機能を使用する 名前ボックスを使用する
5	出題範囲1-3 ワークシートブックの作成と管理	シート見出しの色を変更する ページ設定を変更する 行や列を挿入する、削除する ブックのテーマを変更する 行の高さや列の幅を調整する 透かしを挿入する ヘッダーやフッターを挿入する 入力規則を設定する
6	出題範囲1-4 ワークシートブックの作成と管理	ワークシートを非表示にする 行や列を非表示にする クイックアクセスツールバーをカスタマイズする リボンをカスタマイズする マクロのセキュリティを管理する ブックの表示を変更する 簡単なマクロを記録する ブックのプロパティに値を追加する ズームを使用する 数式を表示する ウィンドウ枠を固定する ショートカットキーを割り当てる ウィンドウを分割する
7	出題範囲1-5 ワークシートブックの作成と管理	印刷範囲を設定する 別のファイル形式でブックを保存する ワークシートを個別に印刷する 拡大縮小印刷を設定する ヘッダーやフッターを繰り返す 以前のバージョンと下位互換性を保つ 印刷するためにブックを設定する 利用しているコンピューター以外の場所にファイルを保存する (ex. OneDrive, SharePoint, ネットワークドライブなど)

回	テ ー マ	内 容
8	出題範囲2-1 セルやセル範囲の作成	ワークシートにデータを追加する データを検索する、置換する データをコピーする、貼り付ける オートフィル機能を利用する データを複数の列に分割する セルを挿入する、削除する
9	出題範囲2-2 セルやセル範囲の作成	セルを結合する セルの配置やインデントを変更する フォントやフォントスタイルを変更する 書式のコピー・貼り付けを使用する セル内のテキストを折り返して表示する 数値の書式を適用する 塗りつぶしの色を適用する セルのスタイルを適用する
10	出題範囲2-3 セルやセル範囲の作成	条件付き書式を適用する スパークラインを挿入する 行と列を入れ替える アウトラインを作成する アウトラインでグループ化されたデータを折りたたむ 小計を挿入する
11	出題範囲3-1 テーブルの作成	テーブルとセルは二の間を移動する テーブル内でセルを追加する・削除する タイトルを設定する
12	出題範囲3-2 テーブルの作成	テーブルにスタイルを適用する 縞模様（行）や縞模様（列）を適用する 集計行を挿入する
13	出題範囲3-3 テーブルの作成	レコードをフィルターする 複数の列のデータを並べ替える 並べ替え順を変更する 重複データを削除する
14	出題範囲4 数式や関数の適用	セル参照を利用する（相対参照・複合参照・絶対参照） 演算を実行する順序を定義する 数式でセル範囲を参照する
15	出題範囲4 数式や関数の適用	SUM関数を使用する MAX/MIN関数を使用する COUNT関数を使用する AVERAGE関数を使用する
16	出題範囲4 数式や関数の適用	SUMIF関数を使用する AVERAGEIF関数を使用する COUNTIF関数を使用する
17	出題範囲4 数式や関数の適用	RIGHT/LEFT/MID関数を使用する TRIM関数を使用する UPPER/LOWER関数を使用する CONCATENATE関数を使用する
18	出題範囲5 グラフやオブジェクトの作成	チャートやグラフを作成する データ範囲（系列）を追加する ソースデータの行と列を切り替える クイック分析を使用する
19	出題範囲5 グラフやオブジェクトの作成	凡例を追加する チャートやグラフのサイズを変更する チャートやグラフの構成要素を変更する グラフのレイアウトやスタイルを適用する チャートやグラフを配置する
20	出題範囲5 グラフやオブジェクトの作成	テキストボックスを挿入する SmartArtを挿入する 画像を挿入する オブジェクトに枠線を追加する オブジェクトの色を変更する オブジェクトにスタイルや効果を追加する オブジェクトのプロパティを変更する オブジェクトを配置する
21	模擬試験①	練習
22	模擬試験①	確認テスト
23	模擬試験②	確認テスト
24	模擬試験③	確認テスト
25	模擬試験④	確認テスト
26	模擬試験⑤	確認テスト
27	検定試験（MOS検定）	到達に応じて検定受験
28	検定試験（MOS検定）	到達に応じて検定受験
29	検定試験（MOS検定）	到達に応じて検定受験
30	検定試験（MOS検定）	到達に応じて検定受験

回	テ ー マ	内 容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	よくわかるMOS Excel2016テキスト (FOM出版) MOS対策テキスト Excel2016 (日経BP)	期末試験 出席率 授業態度	60.0% 20.0% 20.0%	期末試験はMOS検定 を基準とする

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般常識		こども福祉教育学科/2年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一

授業の概要

数学、社会を中心に一般常識を基本から学習し、基礎学力の向上を目指す。

授業終了時の到達目標

- ・一般常識を習得する。
- ・採用試験に合格する。

回	テーマ	内容		
1	基礎学力の確認	・基礎学力テスト(数学) ・社会(県名・県庁所在地名)		
2	数学(四則計算)	・県庁所在地テスト ・数学(四則計算)		
3	数学(一次方程式)	・四則計算テスト ・一次方程式(移項、比例式)		
4	日本国憲法	・一次方程式テスト ・日本国憲法(憲法、三権分立、政治)		
5	数学(連立方程式)	・日本国憲法テスト ・連立方程式(加減法、代入法)		
6	国際社会	・連立方程式テスト ・国際社会(国連、略称、国際問題)		
7	数学(方程式の利用)	・国際社会テスト ・方程式の利用(個数・代金、定価、年齢)		
8	地理	・方程式テスト ・地理(日本地理、世界地理)		
9	数学(速さ)	・地理テスト ・速さ(速さ・時間・距離)		
10	国語(ことわざ)	・速さテスト ・ことわざ(ことわざ、故事成語)		
11	数学(濃度)	・ことわざテスト ・濃度(食塩水)		
12	化学・生物	・濃度テスト ・化学(成分、化学反応)、生物(健康、代謝、分類)		
13	数学(確率)	・化学・生物テスト ・確率(樹形図、表)		
14	英語	・確率テスト ・英語(英単語、反意語、語句の説明)		
15	まとめ、試験	一般常識のまとめ 筆記試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリントを配布		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座		こども福祉教育学科/2年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	横溝 美佳(実務経験有)
授業の概要				
本科目は、採用試験に向けての準備を行う。				
授業終了時の到達目標				
1. 自己PR 2. 履歴書の作成 3. 面接				
回	テーマ	内容		
1	はじめに	授業内容の説明 就職活動の説明		
2~ 3	自己PR	自己PRの作成		
4~ 5	自己PR	自己PRの作成		
6~ 7	自己PR	自己PRの作成		
8~ 9	履歴書	履歴書作成		
10~ 11	履歴書	履歴書作成		
12~ 13	履歴書	履歴書作成		
14~ 15	履歴書	履歴書作成		
16~ 17	履歴書	履歴書作成		
18~ 19	履歴書	履歴書作成		
20~ 21	面接	面接練習		
22~ 23	面接	面接練習		
24~ 25	面接	面接練習		
26~ 27	面接	面接対策授業		
28~ 29	面接	面接対策授業		
30	面接	面接対策授業		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		授業態度	100.0%	・主体的に授業に参加すること。

回	テ ー マ	内 容		